

人間ドックの結果項目(抜粋)の見方

血液検査では、数多くの病気のリスクについて調べることができます。具体的には、肝臓の異常、腎臓の異常、貧血、脂質異常症、糖尿病などです。ここでは一部ですがそれぞれの検査項目で見つけられる病気の兆候について紹介します。

※検査機関・検査方法によって診断結果は異なることがあります。本紙で示している基準値は当院の数値範囲です。実際の健康診断で再検査や受診の指示があった場合には必ず従うようにしましょう。

血液検査項目

☑ 総蛋白

総蛋白とは、血中に存在するタンパク質の総量です。体内に吸収されたタンパク質は、主に肝臓で「アルブミン」と「グロブリン」という2種へと再合成され、血中へと流し込まれます。つまり、アルブミンとグロブリンの合計が、総蛋白の値ということになります。何らかの病気を罹患しているときは数値が増減しますが、とりわけ栄養が足りていない状態や肝臓の障害、腎臓の障害などで異常値を示すことがあります。総蛋白の基準値は6.7～8.3g/dLです。多すぎても少なすぎても何らかの異常の可能性がります。

☑ 総ビリルビン

古くなった赤血球が破壊される際には、「ビリルビン」と呼ばれる、黄色い色素が生まれます。人間ドックで測定される総ビリルビンは、血中に含まれているビリルビンの総量を表す値です。総ビリルビンの基準は0.3～1.2mg/dLと、通常は血中にごくわずかしこ存在していません。黄疸と密接な関係があり、この基準値に対して総ビリルビンの値が高い場合、肝臓や胆道(胆嚢や総胆管)、膵臓の疾患が疑われます。

☑ アルブミン

アルブミンはグロブリンと共に、総蛋白を構成する要素です。基準値に対してアルブミンが高い場合、血管内の水分が減少し、脱水傾向にあることを表します。値が低い場合は、蛋白質不足や肝機能低下のサインです。基準値は4.0～5.0g/dLです。

☑ クレアチニン

クレアチニンは筋肉で作られる老廃物です。健康な人では、血液中のクレアチニンは腎臓でろ過されて尿として排出されるため、血中のクレアチニン濃度が高い場合は、腎臓の機能が低下していると考えられます。なお、クレアチニンの数値は筋肉量が多いほど高くなる傾向があるので、基準範囲に男女差があります。基準値は男性1.1mg/dL以下、女性0.8mg/dL以下です。

☑ ALP

ALPは多くの臓器、器官に存在している酵素です。数値が高い場合、肝臓や胆道系の異常が考えられます。そのほか骨の異常でも高値を示します。基準値は38～113IU/Lです。



津島市民病院
健康管理センター医師
小林都仁夫

人間ドックを受ける理由や検査でわかる病気についてご説明しました。当院で受けられる人間ドックや健康診断についてはホームページを確認してください。受診は予約制です。

新型コロナウイルス感染症の影響で各種健(検)診の受診率が低下しています。健(検)診は不要不急の外出ではなく、必要な外出です。基本的な感染対策を行い、年に1回の受診をお勧めします。

津島市民病院 人間ドック



この特集は「私のカルテ」特別号として掲載しています。

健康診査が無料で受診できます

津島市国民健康保険または後期高齢者医療に加入している、昭和58年3月31日以前生まれの方が対象です。今月から、市民病院でも受診できるようになりました。詳しくは市政のひろば5月号をご確認ください。



特定健康診査について

問合 市民病院経営企画課経営企画G ☎28-5151 内線2281